

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム ほほえみ		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	令和5年5月9日	評価結果市町村受理日	令和5年7月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170501480-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方ができる限り、それまでの生活を継続できるよう、ご本人様・ご家族様と相談させて頂き、日々の暮らしの中でご支援をさせて頂いております。
医療面では、月2回の協力医療機関の訪問診療があり、緊急時も24時間連携体制が確率されており安心して過ごして頂けます。その他、訪問歯科診療との連携、必要に応じ皮膚科の訪問診療可能となっております。
ご本人様の残存能力を活かして頂きながら、できる事を職員と一緒に行っていただき「ご本人様も社会の一員として活動ができています」と感じて頂く事で、生き生きとした生活を送って頂いております。毎日が同じ事の繰り返しにならないよう、毎月季節に沿った行事やレクリエーションを取り入れ、笑顔で過ごして頂ける時間作りを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム ほほえみ」は、月寒河畔緑地や公園などがある自然に恵まれた静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。玄関ホールは吹き抜けで、居間や食堂も独立した開放感のある造りになっている。家庭的な調度品を配置し、食卓テーブルには季節の花が飾られており、自宅のような温かな雰囲気の中利用者は好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。昨年度新たに着任した管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりの生活全体を把握して本人の思いに寄り添い、その方らしい生活ができるようなケアに熱心に取り組んでいる。ケアマネジメントの面では、毎月全員のアセスメントを行い介護計画や日々のケアに活かしている。食事面では利用者の好みに配慮してパンの日を月1回設けるなど、新たな取り組みも始めている。野菜苗を植えたり花の種まき、調理などに利用者が参加し、各利用者の得意なことや興味のあることで役割を担いながら楽しく生活できるように支援している。入浴は、利用者の希望に沿った時間帯や回数など臨機応変に対応して楽しく入浴できるように工夫している。管理者は、職員の意見や提案をケアや運営に積極的に反映させながら職員の資質向上や働きやすい職場環境の整備に努め、より良いグループホームを目指して前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し常に意識できるようにし、カンファレンスで理念に沿ったケアを検討している。	ケア理念に「住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。事務所の入り口に掲示し、管理者が会議やケアカンファレンスの中で説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のお祭りや盆踊りなどの行事に参加できていた。	感染症流行のため地域の方々との交流する機会はなかったが、利用者と一緒に近くのスーパーマーケットへ買い物に出かけている。今後は、以前のように町内会行事に積極的に参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は入館制限もあり対面では行えないが電話などで相談等あった場合は助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しその場で頂いた意見をサービス向上に活かしている。現在は書面開催の為普段ご家族様と電話などでのやり取り等の中から個々に合わせたサービス向上に繋げている。	感染症流行のため書面会議を開催し、行事や入退去状況、職員の入退職を報告している。5月から対面での会議を予定している。書面会議の議事録は全家族に送っている。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども事前に聞き取り会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退去、事故等の報告を行い助言・指示を頂いています。	区役所に毎月入退去状況を報告したり、感染症に関する情報をもらっている。保護課の職員と電話でやり取りし、情報交換している。現在は相談する事例はないが、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1度、身体拘束研修を半年に1度全職員を対象に行っていて理解している。職員間でも声を掛け合い取り組んでいる。施錠は1階外玄関を防犯上常時施錠を行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、採用時研修と年2回の勉強会を実施している。各職員は研修報告書で更に理解を深めている。身体拘束委員会の議事録も全職員で確認している。利用者が出かけようとした時も閉塞感を与えないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時や定期的な研修を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用している方がおり、必要に応じ関係各位と話し合い等を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書や重要事項説明書の説明を十分に行っている。又、改定などの際にも疑問点などその都度説明し理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から意見や要望を言って頂けるような関係づくりに努めている。	電話や来訪時に利用者の様子を伝えながら家族の意見や要望を聞き取っている。今後は、意見や要望を個別に記録することも考えている。2か月ごとに写真入りの個別のお便りを発行しているが、今後は毎月の発行も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2度、ケアカンファレンス・全体会議を行い、意見及び提案を聞く機会を設けている。 その他、必要に応じ適時機会を設けている。	管理者は普段から職員の提案や意見を聞き取り、職員主体で考えながら仕事ができるような運営に取り組んでいる。ケアや環境整備などに職員の提案が活かされている。個別面談も定期的実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話し合う機会を作るよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者に対しては業務の振り返りシートを活用し、できていること、できていないことの可視化を図り向上に努めている。E-ラーニングを活用し全職員が研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会に参加していたがコロナ禍になってからは協議会は行われていない。職員が同業者との交流を持てる機会は今はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話しに対してできる限り傾聴と理解をしケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を理解し信頼構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の希望、支援について意向に沿うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	著しい環境変化が無いようにできることは今まで通りやっていたりよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人の生活状況をお伝えし、状況に合わせたご本人らしい生活とは何かをご家族と一緒に考え、支援を行っている。 コロナ禍で面会制限があり、短時間での面会以外にリモート面会や電話でのご家族様との会話の機会を設けるなどの支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会はできないがリモート面会や電話の取次ぎなどを行い、馴染みの方との関係性が途切れないよう支援を行っている。	知人や友人から電話やはがきが届く利用者もいる。感染症の流行で外出する機会はなかったが、今後は町内会の行事に参加したり、利用者の馴染みの場所にも出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人孤立しないよう配慮し、時には職員が間に入り会話を拡げるよう支援を行い、レクリエーション等、入居者様同士が関われる機会を作るよう支援に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に施設側から積極的に連絡することはできないが、ご家族様から連絡頂いた時はアドバイス等させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを尊重し希望に沿うよう努めている。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートを作成しているが、追記や更新は行われていない。	課題分析シートなどを活用して趣味や嗜好などの情報も記録するなど、利用者の現状がわかる書類の更なる整備と定期的な更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力生活環境に大きな変化が生じる事が無いように、事前に生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時体調確認を行い一人一人の心身状態に合わせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のケアカンファレンスで意見を出し合い、より良い支援ができるよう計画作成に努めている。	毎月のアセスメントを基に利用者担当職員を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。介護記録はタブレット端末で記録しており、サービス内容に沿った記録方法も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化は記録し、送りや事務連絡等を活用し情報共有を図り計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ何が最善かを相談しながら支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍の為出前などの外出の伴わない地域資源の活用のみ行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療が入っていて特変時は24時間連絡が取れる体制が整っている。以前からのかかりつけ医に関してはご家族と話し合い必要時には職員が付き添い受診が来ている。	協力医療機関の往診を全員が受けている。家族と外部に通院する場合は健康状態を伝え、必要に応じてバイタル情報を提供することもある。受診記録は、タブレット端末で個別に記録している。	

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の他に毎週一人一人の状態を記した健康管理記録を訪問看護師に提出し医師と連携を取っていただき指示を頂いている。また急な変化の時は電話連絡などで適切な受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護添書を持参し重要なことは口頭でも伝えている。また、入院中は定期的に連絡を入れ状況把握をしながら早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明を行っている。訪問診療医師・看護師に相談しながら本人・家族と話し合って支援できている。	利用開始時に「ご利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、常時医療行為が必要になった場合は対応が難しいことを説明している。利用者の体調変化に応じて医師と家族、事業所で話し合い適切な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い急変時、事故発生時に備えている。連絡体制の整備も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行い、災害時には協力体制が取れるよう町内会との協定書を取り交わしている。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。うち1回は防災設備会社の協力を得ている。今後に向けて地域との協力体制を再確認する意向である。職員の救命講習も計画的に進める予定である。	地震を想定した避難訓練を実施するとともに、ケア別の個別対応についても話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いを尊重し羞恥心等にも配慮した声掛けをしている。	採用時に接遇マナーの研修を実施し、言葉かけや対応に配慮している。プライバシー保護のため、部屋番号等で申し送りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係性を作るため、できる限り入居者様の話に耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを考えながら1日を有意義に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	配色や組み合わせを一緒に考えながら洋服を選んだり鏡を見ながらご自分で身だしなみを整える事ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て食べたくなるような盛り付けにも工夫している。もやしの芽取りや野菜の皮むき、食器ふき等できることは職員と一緒にしていただいている。	嗜好を尊重し「パンの日」を新たに設け、自分でパンを選んだりしている。数種類のおやつから好みの物を選ぶなど、本人が選択する機会を大切にしてお好評を得ている。昼・夕食は全て事業所内で手作りしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態、嚥下状態を考えて個々に形態を変えて提供できている。体調不良が続き食事がとれない方には訪問診療医師と相談しながらエンシュア等併用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに口腔ケアの促し、確認、介助を行っている。また、協力医療歯科と連携を取り訪問診療や助言をいただいている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時声掛けし誘導出来ている。カンファレンス等で必要性を確認し合いながら無駄をなくしている。	日中はトイレで排泄することを大切にしており、排泄記録でパターンを把握して声かけや誘導を行い、ほぼ全員がトイレで排泄できている。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やストレッチなどを行い水分摂取の声掛けをしている。排泄チェックを毎日行い適時腹部マッサージや温タオルなどで温めたりしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調・身体確認を行い声掛けしご本人と相談しながら入浴できている。	入浴剤で香りを楽しめるように工夫し、週2回の入浴を支援している。入浴したい時はいつでも入れるようにしており、毎日入浴している利用者もいる。入浴を拒む場合は、時間や日を改めて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じた支援できている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬情を確認できるようにしてあり特に薬の変更があった時は送りなど周知確認ができている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月四季折々の行事を企画し楽しんでいただいたり長年されてきた家事などを職員と一緒に張り合いのある生活ができるよう支援している。			

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍で外出はできていないが中玄関が広いのでそこで花見行事などをしたり中玄関にクリスマスツリーを飾りフロアから出て眺めに行ったりしている。	感染症流行前は外出の機会が多かったが、現在は感染予防のため控えており、近所の公園への散歩や畑での作業などで外気に触れる機会を作っている。今後は、計画的に外出を実施していく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理はご家族様がやっているため、ご本人様は所持していません。本人から要望のあったものは施設で立替えて職員が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される時は、職員が取り次ぎながらかけたりご家族とのリモート面会等の支援が出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節を感じられる装飾をしたり温度・湿度などにも気を配っている。	広々とした開放的なエントランスには中庭があり、季節感を感じられるよう草木が植えられているようになっている。キッチンや居間は家庭的な雰囲気の家具が配置され、畳の小上がりもあり、ゆったりできる空間となっている。トイレや浴室は車いすが利用できるよう広々としており、脱衣室にもトイレが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂等、ご本人様の希望に沿って過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等を置き自宅と変わらない環境を作り落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室のドアやクローゼットのドアは和風の壁紙が貼ってあり落ち着いた雰囲気である。自宅で使用していた家具や照明器具を持参し、生花や本人の趣味の作品など自由に飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行導線の確保を行い安全に努めている。トイレや居室等名前や写真を貼りスムーズに生活が送れる工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501480		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム ほほえみ		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-12		
自己評価作成日	令和5年5月9日	評価結果市町村受理日	令和5年7月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0170501480-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方ができる限り、それまでの生活を継続できるよう、ご本人様・ご家族様と相談させて頂き、日々の暮らしの中でご支援をさせて頂いております。
医療面では、月2回の協力医療機関の訪問診療があり、緊急時も24時間連携体制が確率されており安心して過ごして頂けます。その他、訪問歯科診療との連携、必要に応じ皮膚科の訪問診療可能となっております。
ご本人様の残存能力を活かして頂きながら、できる事を職員と一緒に行っていただき「ご本人様も社会の一員として活動ができています」と感じて頂く事で、生き生きとした生活を送って頂いております。毎日が同じ事の繰り返しにならないよう、毎月季節に沿った行事やレクリエーションを取り入れ、笑顔で過ごして頂ける時間作りを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し常に意識できるようにし、カンファレンスで理念に沿ったケアを検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のお祭りや盆踊りなどの行事に参加できていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は入館制限もあり対面では行えないが電話などで相談等あった場合は助言している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しその場で頂いた意見をサービス向上に活かしている。現在は書面開催の為普段ご家族様と電話などでのやり取り等の中から個々に合わせたサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退去、事故等の報告を行い助言・指示を頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1度、身体拘束研修を半年に1度全職員を対象に行っていて理解している。職員間でも声を掛け合い取り組んでいる。施錠は1階外玄関を防犯上常時施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時や定期的な研修を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を利用している方がおり、必要に応じ関係各位と話し合い等を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書や重要事項説明書の説明を十分に行っている。又、改定などの際にも疑問点などその都度説明し理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から意見や要望を言って頂けるような関係づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2度、ケアカンファレンス・全体会議を行い、意見及び提案を聞く機会を設けている。 その他、必要に応じ適時機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話し合う機会を作るよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者に対しては業務の振り返りシートを活用し、できていること、できていないことの可視化を図り向上に努めている。E-ラーニングを活用し全職員が研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会に参加していたがコロナ禍になってからは協議会は行われていない。職員が同業者との交流を持てる機会は今はほとんどない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話しに対してできる限り傾聴と理解をしケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を理解し信頼構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の希望、支援について意向に沿うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	著しい環境変化が無いようにできることは今まで通りやっていたりよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人の生活状況をお伝えし、状況に合わせたご本人らしい生活とは何かをご家族と一緒に考え、支援を行っている。 コロナ禍で面会制限があり、短時間での面会以外にリモート面会や電話でのご家族様との会話の機会を設けるなどの支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会はできないがリモート面会や電話の取次ぎなどを行い、馴染みの方との関係性が途切れないよう支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人孤立しないよう配慮し、時には職員が間に入り会話を拓けるよう支援を行い、レクリエーション等、入居者様同士が関われる機会を作るよう支援に努めている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に施設側から積極的に連絡することはできないが、ご家族様から連絡頂いた時はアドバイス等させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを尊重し希望に沿うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	極力生活環境に大きな変化が生じる事が無いように、事前に生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時体調確認を行い一人一人の心身状態に合わせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のケアカンファレンスで意見を出し合い、より良い支援ができるよう計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化は記録し、申送りや事務連絡等を活用し情報共有を図り計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ何が最善かを相談しながら支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍の為出前などの外出の伴わない地域資源の活用のみ行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療が入っていて特変時は24時間連絡が取れる体制が整っている。以前からのかかりつけ医に関してはご家族と話し合い必要時には職員が付き添い受診が出来ている。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の他に毎週一人一人の状態を記した健康管理記録を訪問看護師に提出し医師と連携を取っていただき指示を頂いている。また急な変化の時は電話連絡などで適切な受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護添書を持参し重要なことは口頭でも伝えている。また、入院中は定期的に連絡を入れ状況把握をしながら早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明を行っている。訪問診療医師・看護師に相談しながら本人・家族と話し合っ支援できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い急変時、事故発生時に備えている。連絡体制の整備も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行い、災害時には協力体制が取れるよう町内会との協定書を取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いを尊重し羞恥心等にも配慮した声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係性を作るため、できる限り入居者様の話に耳を傾けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを考えながら1日を有意義に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	配色や組み合わせを一緒に考えながら洋服を選んだり鏡を見ながらご自分で身だしなみを整える事ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て食べたくなるような盛り付けにも工夫している。もやしの芽取りや野菜の皮むき、食器ふき等できることは職員と一緒にしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態、嚥下状態を考えて個々に形態を変えて提供できている。体調不良が続く食事がとれない方には訪問診療医師と相談しながらエンシユア等併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに口腔ケアの促し、確認、介助を行っている。また、協力医療歯科と連携を取り訪問診療や助言をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時声掛けし誘導出来ている。カンファレンス等で必要性を確認し合いながら無駄をなくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本体操やストレッチなどを行い水分摂取の声掛けをしている。排泄チェックを毎日行い適時腹部マッサージや温タオルなどで温めたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調・身体確認を行い声掛けしご本人と相談しながら入浴できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じた支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬情を確認できるようにしてあり特に薬の変更があった時は送りなどで周知確認ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月四季折々の行事を企画し楽しんでいただいたり長年されてきた家事などを職員と一緒にやり張りのある生活ができるよう支援している。		

ふれあいの里グループホームほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍で外出はできていないが中玄関が広いのでそこで花見行事などをしたり中玄関にクリスマスツリーを飾りフロアーから出て眺めに行ったりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理はご家族様がやっているため、ご本人様は所持していません。本人から要望のあったものは施設で立替えて職員が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される時は、職員が取り次ぎながらかけたりご家族とのリモート面会等の支援が出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節を感じられる装飾をしたり温度・湿度などにも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂等、ご本人様の希望に沿って過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等を置き自宅と変わらない環境を作り落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行導線の確保を行い安全に努めている。トイレや居室等名前や写真を貼りスムーズに生活が送れる工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームほほえみ

作成日：令和 5年 7月 13日

市町村受理日：令和 5年 7月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども事前に聞き取り会議に活かすように期待したい。	ご家族様に運営推進会議へ参加して頂き、より良いサービスの提供に繋げる。	ご家族様へ運営推進会議のご案内を郵送し、参加できない場合には、書面にてご意見を返信して頂き、会議の活性化を図る。	半年
2	23	課題分析シートなどを活用して趣味や嗜好などの情報も記録するなど、利用者の現状がわかる書類の更なる整備と定期的な更新を期待したい。	入居者様の情報(変化)の共有を図り、定期的にセンター方式シートの更新を行う。	毎月行っているケアカンファレンスで情報共有を図り、必要事項の更新を実施する。	半年
3	35	地震を想定した避難訓練を実施するとともに、ケア別の個別対応についても話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。	地震を想定した避難訓練を1年に1回実施。	避難訓練年間計画を立て実施(6月予定) 避難訓練(3回/年)実施前にケアカンファレンスに於いて、入居者様の現状確認を行い、個別対応計画の確認再検討を行う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。